

「今に伝わる室町文化」(東京書籍6年歴史編)「室町文化と力をつける人々」(教育出版6年)
を歴博で授業しませんか

栄町立安食台小学校 後藤 薫

令和2年度、4年生担任の私が6年生のクラスを借りて、室町文化の単元を博学連携で授業実践をさせてもらい、報告をする予定でしたが、コロナ禍で、他の学年の指導が困難となり、今回は実践計画として報告させていただきます。

1 実施学年及び教科・領域

小学校第6学年 社会科

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 「今に伝わる室町文化」(東京書籍6年歴史編)
「室町文化と力をつける人々」(教育出版6年)

(2) ねらい

① 学習指導要領との関連

本単元は、学習指導要領第6学年の内容(2)の(オ)「京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解すること」を主なねらいとする。室町文化を代表する金閣や銀閣は、室町幕府将軍足利氏によって、政治的あるいは文化的な力を示すものとして建てられたものである。また、国宝や世界文化遺産として大切に保護され、今もなお多くの人々に親しまれている。このような足利氏とそれにかかわる文化遺産について、「なぜ」で始まる学習問題を設定し、それを解決する問題解決的な学習活動を通して、子どもたちは金閣や銀閣が建てられた背景にある足利氏の働きや世の中の様子との関連性や、今の生活文化に直結する要素をもつというよさについて考えることができる。このことは、室町文化が当時の人物の働きや世の中の状況の影響を受けていることや、室町時代の生活文化が、実は自分たちの生活ともかかわっているという室町文化のもつ歴史的事象の意味について考えることにつながるものである。このような内容を博学連携で学習することによって、歴史的事象の意味について考える力が育ち、我が国の歴史や伝統を大切にする態度につながると考える。

② 単元の目標

○知識・理解

京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、屏風絵や地図、年表などの資料で調べ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。

○思考・判断・表現

代表的な建造物や絵画などと当時の社会の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の文化の特徴を考え、適切に表現している。

○主体的に学習に取り組む態度

主体的に学習問題を追究・解決し、学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

(3) 博物館との関連

① 活用方法

「来館型活用」「非来館型活用」

② 活用予定の資料

授業実践場所	使用する資料
本校体育館	洛中洛外図屏風(歴博甲本) 床置きパネル(貸出資料)
第2展示室	・京都の町並 復元模型 ・洛中洛外図屏風 ・春日社田楽模型
第4展示室	・能登・宇出津のあばれ祭り

参考文献・引用

国立歴史民俗博物館編 『わくわく！探検 れきはく日本の歴史2』 吉川弘文館 2018年
 神山知徳 「教室から博物館へー洛中洛外図屏風を用いた調べ学習の展開事例ー」
 『学校と歴博をつなぐー平成22・23年度博学連携研究会議実践報告書一』
 国立歴史民俗博物館 2012年

(4) 指導観

前回(平成29年度・30年度)の博学連携では、江戸文化の導入で「江戸図屏風」を活用して、「新しい文化と学問」(教育出版6年上)「町人の文化と新しい学問」(東京書籍6年上)の単元を第3展示室を教室代わりにして授業を実践する方法を研究してきた。今回の博学連携では、室町文化を歴博で授業できないかとテーマをもち、研究を進めてきた。(今年度4年生担任の私が、6年生の学級を借りて博学連携の授業実践を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により、他学年の指導が難しくなってしまう、実践計画として報告する。)

単元の導入として、京都と周囲の名所や人々の暮らしを描いた「洛中洛外図屏風(歴博甲本)」床置きパネルを体育館に広げ、「人々の生活」「建物」「文化」について気づいたことを色別の付箋に書いて貼りだし、話し合わせ、関心をもたせたい。また、歴博の第2展示室の「京都の町並復元模型」を活用し、屏風絵との比較を行い、立体的に京都の町並や人々の様子を詳しく見ていく。また、田楽について、春日社田楽模型を活用し、今日の生活とのつながりを学ばせたい。そして、場所を第4展示室に移し、江戸時代に始まった能登・宇出津のあばれ祭りの展示物や映像資料を見学し、京都の祇園祭のつながりを理解させたい。事後指導には、江戸文化のときと同様、学んだことを生かして、室町かるた作りをして振り返らせたい。

また、授業中は、国立歴史民俗博物館編「わくわく！探検 れきはく日本の歴史2」を常に携帯し、展示物の解説などに役立てたい。

3 指導計画(8時間扱い)

過程	時間	東京書籍6年歴史編「小単元名」 ○学習活動及び内容	使用する歴博の資料 【実践場所】	評価規準	『わくわく！探検 れきはく2日本の歴史』掲載ページ 
導入	1	「足利義政が建てた銀閣」 ○洛中洛外図屏風」床置きパネルを見て、室町時代の「人々の生活」「建物」「文化」について気づいたことをまとめる。	「洛中洛外図屏風(歴博甲本)」 床置きパネル 【本校体育館】		P34～41
〔予想される「洛中洛外図屏風」の場面リスト〕					
右 左	扉	児童が選んだ場面	気づいたことや疑問に思ったこと ____主体的に学ぶ姿	※教師による補足説明	
右	1	人が集まっている。	限られた人しか入れないようで、柵の外から中の様子を見ているようだ。何をしているのだろうか。	観世能の舞台	
右	2	御輿を担いで、武器を持って鳥居を通っている。	御輿のような物を担いで祭りのようだけど、武器を持っているのは不思議だ。今、ぼくは祭りの練習をしているけど、ぼくの地区の御輿の様子を見てみたい。	四条通りを行く函谷鉦(かごぼこ)(祇園祭)	
右	2	何かを運ぶものの上にカマキリが乗っている。	御輿みたいなものに子供が乗っていて、楽器を弾いている。農民が御輿を引いている。	四条通りを行く函谷鉦と蟻螂山(とうろうやま)(祇園祭)	
右	4	鳥居のところでお祈りをしている	4人くらいで並んで待っている。みんな槍みたいなものを持っている。	斯波邸前	
左	2	金閣	冬の様子。雪が積もっている。坊さんが入っていく様子が描かれている。銀閣も描かれているの？探したい。	金閣	
左	6	輪になってしゃがんでいる。	真ん中の人は太鼓をたたいているようだ。	風流念仏踊り	

		○金閣・銀閣について調べ、書院造の写真を見て気づいたことを話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。			【思判表】金閣寺等の様子から、問いを見出し、学習問題として表現している。(発) (ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)	
	1	○洛中洛外図屏風で見つけた人物や建物を模型でも探してみよう。 	京都の町並復元模型 【第2展示室】		【思判表】洛中洛外図屏風で見た京都の町並の様子を立体的に見て、室町時代の関心を高める。	
展開1	1	「室町文化と現在のつながり1」 ○田楽について調べ、室町時代に今日の生活につながる文化が生まれたことを適切に表現する。	春日社田楽模型 【第2展示室】 		【態】調べたことをもとに、室町時代の文化と今日の自分たちの暮らしや文化との関わりを考えようとしている。(発)	P48～49
展開2	1	「室町時代の京都の祭り」 ○祇園祭に関心をもち、現在も室町時代と同じように続けられていることに気付く。 	祇園祭函谷鉾 洛中洛外図屏風 【第2展示室】 能登・宇出津のあばれ祭りの展示物 【第4展示室】		【態】室町幕府が置かれたころから京都で続いている祭りについて主体的に調べようとしている。(発)	P50～51
展開3	1	「室町文化と現在のつながり2」 ○能や狂言について調べ、室町時代の文化と今日の暮らしや文化とのつながりを考え、表現する。	【本校教室】		【態】調べたことをもとに、室町時代の文化と今日の自分たちの暮らしや文化との関わりを考えようとしている。(発)(ノ)	——
展開4	1	「新しい文化が生まれる」 ○室町時代に盛んになった水墨画や茶の湯、生け花などについて調べる。	【本校教室】		【知技】水墨画や茶の湯、生け花などから、室町時代の文化の特徴やそれらの文化が現代まで受け継がれていることを理解している。(発)(ノ)	——

ま と め	2	<p>「学習のまとめ」</p> <p>○補足（歴博で指導できなかった学習の補足）</p> <p>○室町文化かるたや双六を作って遊ぶことができる。学習のまとめができる。（単元まとめのテスト）</p>	【本校教室】	<p>【態】かるたや双六作りをとおして、室町時代に生まれた文化が現在の暮らしに受け継がれていたり、人々に親しまれたりしていることを確認することができる。</p> <p>（発）（ノ）</p>	——
-------------	---	--	--------	--	----

4 まとめ

○予想される児童の変容

指導者が

- ・博物館の資料を積極的に調べ、連携をもつ
- ・博物館の研究員にも働きかける
- ・「博物館でこんな授業をしたい！」と希望を伝える

ことにより…

- ・博物館展示資料に対する関心・意欲が高まるだろう。
- ・主体的に学ぶ姿が見られるだろう。
- ・資料から時代背景などを読み取る力がつくだろう。
- ・歴史に更に興味を持つきっかけとなるだろう。

○課題

- ・第2展示室の展示物に室町文化に関わるものが江戸文化に比べると少ない。
→今後に期待したい。
- ・管理職の博学連携への理解。
→博学連携の有効性について根気強く話していく。
- ・博学連携の継続，定着。
→個人の研究に留まらず，校内や地域の小中学校に伝えていく。
- ・移動手段の手配が可能か。
→早め（前年度末）の手配。
- ・働き方改革への対応。
→博学連携を初めて扱う単位には時間と労力が必要だが，実践した単位は，ほぼ流れができてきているので，準備に時間があまりかからないであろう。
- ・室町・江戸文化以外の活用。
→今後は，古代史の単位において，第1展示室の活用を考えていきたい。

なによりも…

コロナ禍で，今後，来館型の授業が可能になるのだろうか…。

○最後に

- ・歴博がある佐倉市と同じ管轄の小学校に勤務している身としては，コロナ禍であっても，今後も来館型の活用の有効性を考えていきたい。